

2002年4月23日第三種郵便物認可 (毎月3回5の日発行)  
2009年5月8日発行 SSKW 増刊通巻1617

# SSKW

# 海から海へ

No. 20 2009.5.8【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> [office@umi.or.jp](mailto:office@umi.or.jp)



お花畑 A Flower Garden 606x727 1988 ©Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

## 夫婦コミュニケーション講座

2009年3月8日(日)13:30~15:30

電気通信大学創立80周年記念会館3階フォーラム

主催:特定非営利活動法人海から海へ

平成20年度調布市社会教育関係団体補助金事業

本法人は、毎年、時機を得たテーマを設け、ワークショップを開催しています。2007年度のワークショップ「親子の上手なコミュニケーション」では子育て中のお父さんやお母さんにロールプレイと講演を行い、子育てへの深い理解を得ていただきました。さらに、子育てに関する質問にもお答えし、家庭における親の役割や考え方を学ぶ機会としていただきました。

2008年度はこれまでの活動経験をもとに「夫婦の間のコミュニケーション」についてのワークショップを開催し、夫婦関係が子どもに大きな影響を与えること、また、夫婦の関係は夫婦の個としての生き方や社会に対しても大きな影響を与えることを理解していただく機会といたしました。

講師には、調布市在住、地元愛誠メンタルクリニック講師・スーパーバイザー・カウンセラーで、元日本大学文理学部心理学科教授 佐藤誠氏、愛誠メンタルクリニック所長で、中学校でカウンセラーもしている臨床心理士阿部愛子氏にお願いしました。藤岡とし子さんにはおいしいケーキを作っていただきました。また、託児では3人の保育士さんにご協力いただきました。

### 内容

- 第1部 講演
- 第2部 ロールプレイ
- 第3部 ティータイム
- 第4部 質問に対する回答



講演会



ロールプレイ



ロールプレイの感想



会場入口(電気通信大学正門)

夫婦関係は人間関係の基本です。日々の暮らしの中で、思うことや感じることを傍にいる人に話し、話を聴く人が傍にいる。このような暮らしが成り立っていれば、この社会はずいぶん違ったものになるはずです。今回の講座は、このような方向へ向け、参加の皆様とともに考える良い機会となりました。

ご協力いただいた調布市と電気通信大学および株式会社キャンパスクリエイトの皆様には感謝いたします。



## 平成21年度通常総会

### 開催のお知らせ

日時 2009年5月24日(日)午前11時~12時

場所 調布市布田1-32-5 マートルコート調布407

議題(1)平成20年度事業報告、会計報告

(2)平成21年度事業計画、予算

(3)その他

正会員の方へは総会開催のはがきをお送りします。出欠のご返事をお願いいたします。



さくらんぼの木の下で Under the Cherries 606x727 2005 ©Mizuki Tanaka

## 2009年度会費納入のお願い

2009年度になりました。2009年度会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

2008年度は、多くの方々からたくさんのご入金いただきました。おかげをもちまして、美術館、こころとふくしの相談室、夫婦コミュニケーション講座などの活動ができました。ありがとうございました。

次号にて2008年度の事業および会計のご報告をいたします。

今後ともよろしく申し上げます。

理事長 阿部公輝

### 年会費

正会員 3,000円以上

協力会員 1,000円以上

賛助会員(団体) 30,000円以上

(ご寄付も随時お受けしております)

### 振込口座

郵便振替: 00110-0-684539

銀行振込: みずほ銀行 調布支店

普通預金 8082621

口座名称(とも)

特定非営利活動法人 海から海へ

状態!

私はその姿を目にできることのしあわせを毎日感じます。

最近、仕事はだれのためにするのかなと考えることがありました。

画家を見ていると、自分と自分以外のだれかを信じて、自分と自分以外のだれかのためにも生きていることに気づかせてくれます。

画家のつづらな瞳、素直な気持ちと一所懸命な行動力。その見事さに私はうっとりします。自分もそうありたいと、思います。(愛)

わたしもそうありたいと思います。そしてそうありたいと思う妻とともにいることのしあわせを思います。

自分は何を考えているのか、自分は何者であるのか。人が成長するということは、そのような広大な無意識の世界に少しでも気づくということではないでしょうか。画家の一瞬一瞬はそのことを示しているように思います。(輝)

## 編集後記

画家は弛まず飽かず、絵の制作とヘルパーの仕事に勤しんでいます。週末は家事にも励みます。

私は絵を見るとき、画家の渾身の権化とも言うべき感動を受け取ります。毎朝ヘルパーの仕事へ出かけるとき、待っている人がいることを画家は教えてくれます。週末の我が家。画家が思い通りに掃除をし、家中がきれいになった満足感で満面の笑みを浮かべているのを見ます。午後には、画家特製の胡桃入りのロールパンが焼きあがります。辺りはおいしいにおいで爆発

特定非営利活動法人 海から海へ  
http://umi.or.jp office@umi.or.jp

2009年5月8日 海から海へNo.20

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砩6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200円

無断転載禁止